

インドネシア(ジャワ島)のチラチャップを訪問し、津波リスクに関する調査を実施しました (2024/9/10-13)

テーマ：ハザードマップ, 2004年インド洋津波, 2006年ジャワ島中部地震, 津波避難施設
会場：Badan Penanggulangan Bencana Daerah Kabupaten Cilacap (チラチャップ, インドネシア)

当研究所の村尾修教授（国際防災戦略研究分野）は、インドネシアのガジヤマダ大学やシアクアラ大学との連携のもと、科研費「インドネシア被災地における復興評価手法の開発と災害リスク認知の時空間推移の解明」を進めています。

このプロジェクトの一環として、2024年9月10日から13日にかけて、村尾教授はインドネシア中部ジャワ州のチラチャップを訪れ、ハザードマップに基づく津波浸水リスクを踏まえた住民意識の調査を行いました。また、インドネシア地方防災局（Badan Penanggulangan Bencana Daerah：BPBD）を訪れ、プロジェクト全体の概要を説明した後、チラチャップにおける津波避難の実態と今後の課題について活発な議論を交わしました。地方防災局からは、一層の協力姿勢と期待が示され、今後も共同で課題解決に取り組み、地域の防災力向上に寄与していく所存です。さらに、チラチャップでの調査の後、ガジヤマダ大学でのカウンターパートであるイカプトラ教授とも情報共有し、プロジェクトの今後の展開について検討しました。



チラチャップ市への歓迎ゲート



集合写真



住民への聞き取り調査



BPBDでのミーティング

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）